

## 東京マラソン2024

### 【出場結果】

実施日 : 3月3日(日)

コース : 東京都庁～飯田橋～神田～日本橋～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～高輪～日比谷～東京駅前・行幸通り(日本陸連・IAAF/AIMS 公認コース)

出場者 : 親崎 達朗

リザルト:

	親 崎
タイム	2 : 1 5 ' 5 9 " 自己ベスト 新電元歴代2位
順 位	4 4 位/38,000名(定員数)

### 【レポート】

本大会は、World Athletics (WA/ワールドアスレティックス/世界陸連) によって、「World Athletics Label Road Races」の最高峰の格付けとなるエリートプラチナラベルに認定されており、東京オリンピックのマラソン金メダリストであるエリウド・キプチョゲ選手や、同オリンピックのトラック種目5000mと10000mで金メダリストとなったシファン・ハッサン選手など国内外から多くの招待選手やエリート選手が出場する豪華な顔ぶれで開催されました。

また、パリオリンピック男子日本代表を決めるマラソングランドチャンピオンシップ (MGC) ファイナルチャレンジ最終戦としてオリンピックの最後の1枠を決定する大会でもあります。

当社からは昨年の大会で2時間12分06秒の新電元記録をマークした加藤と親崎がエリート選手枠でエントリーし、加藤は12月に開催された福岡国際マラソン(日本人4位)で痛めた足の故障が長引いて無念の欠場となりましたが、順調にトレーニングを消化出来た親崎は、自身4度目のマラソンとして2時間17分切を目標としてレースに臨みました。



3分12秒/kmのペース設定の中、安定した走りを見せる親崎

前日に強い風が吹き荒れて、気象コンディションが心配されましたが、大会当日は、ほぼ無風で暖かな日差しが注ぐ絶好のコンディションの中、選手達は9時10分に都庁前を一齐にスタートしました。

今回のレースは女子で2時間13分44秒の世界歴代2位の記録を持つシファン・ハッサン選手が出場することもあり、女子の第一集団のペースメーカーが刻む設定タイムは3分12秒/kmと、2時間17分切りを狙う親崎には絶好のペース設定となり、序盤からペースメーカーが先導する大集団の中でレースを進めました。



中盤から終盤にかけてペースが上がるネガティブスプリットを見せた親崎

序盤から中盤にかけて自己記録を狙うには理想的なペースでレースは進み、中間地点を1時間8分17秒で通過し、涼しい顔で確実にピッチを刻む姿に好記録の期待が高まりました。

30km以降はペースメーカーも外れ、大集団の中でも余裕がなくなった選手が、次々と離れだすと、親崎も何度か苦しい場面がありましたが、安定感のあるフォームで苦しさを乗り切って、40km地点で脚が攣るアクシデントの発生により若干のタイムロスがあったものの、見事に自己記録を3分以上も更新する、総合44位 2時間15分59秒のタイムでゴールしました。



大幅な自己記録の更新おめでとう！！

## 【総評】

今回、大幅に自己記録を更新した親崎は、1年前に初マラソンとして出場した防府読売マラソンでは、終盤の失速もあって2時間26分台に終わり、言わばマラソンの洗礼を浴びた形となりましたが、そこからは長野マラソンで2時間21分台、福岡国際マラソンでは2時間19分台と、短い期間で着実に自己記録を縮めて、今回の記録に結びつけました。

親崎は入社以来、チームの中でも故障が少ない選手で、練習を継続することで一步一步着実に力を着けてきましたが、その要因は練習前のアップや練習後のダウンに人一倍時間をかけて、常に自分の身体と向き合いながら競技に取り組んでいることにあると感じます。

また、仕事にも競技にも妥協を許さない生真面目な性格であり、精神的にも肉体的にも厳しい時期を乗り越えてきた親崎が、人間的にも成長して、競技力を伸ばしている姿には、あらためて敬意を表したいと思います。

2023年度のレースは、残すところ、3月31日に福井県で行われるふくい桜マラソンの坪井のみとなりましたので、彼らしい積極的な走りで締め括ってくれることを期待したいと思います。引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。

以上

※画像提供：坂本千夏様